

平成 26 年度第 2 回 小笠原諸島世界自然遺産 地域連絡会議
議事要旨

■議事要旨

- 平成 26 年度の小笠原世界自然遺産地域の現状及び当面の課題について事務局より説明を行い、委員より以下の要望があった。
 - ・世界遺産としての価値が失われつつある危機的状況について、科学委員会で科学的な見地から状況の客観的評価を行い、結果を島民に理解されるように説明すること。
 - ・危機から脱却するためのロードマップについて科学委員会で科学的な情報に基づき議論すること。
 - ・ツヤオオズアリ等、新たに脅威が確認された外来生物への対策の計画を科学委員会で議論し、想定される被害や脅威が明らかになり次第、地域にも情報共有すること。

- 村民意見交換会結果について事務局より説明を行い、委員より以下の要望があった。
 - ・これまでの意見交換会において、村民意見を受けて行政の施策として実施された内容を報告すること。
 - ・東京都や小笠原村が実施した環境に配慮したインフラ整備についても公表し、村民の理解を得ること。
- 地域連絡会議での議論内容について、委員より以下の要望があった。
 - ・遺産の保全管理について、達成されたこと、非達成のことの双方を報告すること。

- 関係機関の平成 27 年度の主な事業予定について事務局より説明を行い、委員より以下の要望があった。
 - ・地域連絡会議構成団体を対象とした現場視察会を、会議開催前に設けること。
 - ・一般村民を対象とし、遺産価値を実感できる現場及び課題のある現場の視察機会をより多く設けること。
 - ・現場が疲弊している。各種対策の目標を今一度見極めて、現場に道標を示すこと。
 - ・会議が多すぎるため、会議の在り方・手法・体制を見直すこと。
 - ・環境配慮策の情報共有化を図ること。主な公共工事・修復事業の実施場所と実施機関に関する情報を地図上に可視化すること。
 - ・外来種が主語の外来種対策になってはいけない。何を守るために実施する事業かを明示すること。

- 保全事業の実施方針について、委員より以下の要望があった。
 - ・主婦や子どもも含めた村民全員参加型で遺産の保全管理を行っていくこと。
 - ・事業の受け皿を地域に作って計画的に事業を実施すること。
 - ・10 年後、20 年後を見据えた事業実施のロードマップを示すこと。

- 科学委員会及び各種検討会の地元開催等について委員より以下の要望があった。
 - ・小笠原諸島世界自然遺産地域科学委員会を地元で開催すること。

- ・科学委員会に限らず、事業検討会およびワーキングを極力地元で開催すること。有人島及び島民生活に関わるものについては特に優先して地元開催とすること。
- ・世界自然遺産／森林生態系保全に関わる事業連携のしたスケジュール設計を行うこと。
- ・科学委員会の検討結果が各機関の予算に反映できる時期に開催すること。

以上